

（９）北海道へき地・複式教育研究連盟の活動や要望について

……………温泉 敏 指名理事

今年度の道へき・複連の活動や現状について報告する。

研究活動では今年度から第 10 次長期 5 か年研究推進計画の 1 年目として、第 68 回全道へき地複式教育研究大会空知大会および第 69 回全道へき地複式教育研究大会檜山プレ大会を行った。関係機関・関係団体との連携では、今年度、道研との連携を図った。道研では、へき地・複式・小規模校の講座を 2 回開催した。2 回とも札幌サテライトから教育大学旭川校、釧路校、函館校の会場を結ぶ遠隔による講座で、どちらも期待数を上回る参加者であった。これからも継続した取組を進めていきたい。

活動概要について。5 月に定期総会・研修会を開き、北海道立教育研究所所長の北村善春様に「地域とともに生きる 北海道へき地・複式教育研究連盟に期待すること」と題して講話をしていただいた。

全道へき地複式教育研究大会空知大会は 9 月 19・20 日の両日、3 市 2 町 7 会場で公開授業を行いました。1 週間後の 9 月 27 日には全道へき地複式教育研究大会檜山プレ大会が 3 町 3 会場で行われた。各会場では教室からあふれるほどの参加があり、午後からは熱心な討議もなされた。

全へき連関係では研究図書に実践が掲載された。全へき連長野大会では、渡島地区の実践発表があり、高い評価をいただいた。

調査報告について、組織検討委員会を設け、各地区連の現状や課題・要望をあげ、それを 8 月に行われる道小・道中・道公教との文教施策の第 3 分科会で話をした。

関係諸期間との連携では、へき地小規模校教育研究センターと連携し、空知大会、檜山プレ大会はもとより、上川地区で行われた三つの地区研にも研究センターから参加があった。昨年度、教育大学釧路校でへき地小規模校教育に関

するフォーラムが開かれ、全国からこの研究に関する大学の方が集まり、道へき・複連もパネリスト等で参加している。今年度は来年3月に教育大学旭川校で実施を予定している。

成果として5点あげている。中でも空知大会や檜山プレ大会での成果を各地区に発信したこと、そして、道研との連携した取組ができたことが大きかったと考えている。

課題としては、加盟校の減少等の問題もあるが、へき地級見直しの準備を始めていくことが次年度の大きな課題となる。